

道徳通信

愛西市立八開中学校
第1学年
令和3年6月16日
No. 7

「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」

～道徳「しょうゆのふるさとを訪ねて」を通して考えました～

「鎌倉時代から続く湯浅しょうゆをこれからも守り続けるのは、とても苦勞がいりますよね。」

「そうですね。まず、湯浅の人も含め、日本人がしょうゆについて詳しく知らないと思います。単にしょうゆをつくるだけでなく、見学やしょうゆ造り体験など地道な活動が、伝統ある湯浅しょうゆを後世に残すことにつながると思っています。」

帰りの電車で車窓を眺めながら、私は店主が最後に言った言葉を何回も思い返していた。「**“労働力”ではなく“意志”を雇おうと思った。**」という言葉に、私は深い感動をおぼえた。

たった1日の取材ではあったが、ひとりの日本人として多くのことを学んだ気がした。

現在、さまざまな日本の伝統的なものが海外でもはやされているが、日本人であるわれわれ自身は、日本についてどのくらい知っているだろうか。しょうゆのふるさとへの訪問は、私たちが日本人として日本に目を向け、勉強していくことの大切さを教えてくれた気がした。

「私」が学んだことを想像し、日本の伝統文化と向き合う気持ちを高めました。

●● ●●くん

しょうゆなど、伝統や文化は誰かが受け継いできたから自分たちは食べられたり、できたりするので、その人たちへ感謝していきたいと思いました。

●● ●●くん

伝統や文化を残すという気持ちが大切だと思った。この学習をしてキーワードになったのが「気持ち」だと思った。

●● ●●さん

しょうゆだけでなく、ふだん何気なく使っているものを大切にしたいと思った。自分も日本の伝統や文化について知りたいと思った。知らないことがあれば、行動にうつせるようにしたい。

●● ●●さん

今ある伝統や文化はとても大切なものだと思います。自分だけが知っていても、他の人が知らなかったら意味がないと思います。ありがたみや感謝の気持ちをもちたいです。

●● ●●さん

「労働力ではなく、意志を雇う」という言葉に感動した。いくら頭のよい人や文才のある人が書いた本でも、意志がなければ、誰にも響かないという話を聞いたことがあり、何事も意志が大切だと感じた。

●● ●●くん

伝統というのは、今まで働いていた職人さんたちの思いをどんどん新しい人にバトンパスをしていくことだと思った。その中でも、新しい発見をする、「挑戦」をしていく人たちがいるから続いていくと思った。

●● ●●さん

私はよく料理をします。その時によくしょうゆを使うので、私はしょうゆを作っている人はすごいなと思いました。私はしょうゆを作っている人に感謝しかないとしました。

●● ●●さん

知らないで日本の恥ということはないと思うけど、日本だけでも知らないことはたくさんあるんだと思った。伝統や文化を残すのは大変だけど、今まで残そうと努力してくてくれた人たちのおかげで、今、私たちの世の中にあるんだなと思った。

●● ●●さん

若い人が少なくなってきたりして、ずっと前からあったすばらしい文化がなくなっていくということは悲しいから、私ももっと昔の文化にふれ、学んでいきたいと思った。